

常陽新聞

発行所 常陽新聞社

本社 〒300-0051
土浦市真鍋2丁目7番6号
電話0298-21-1780(代)
FAX0298-22-6743
水戸支社 〒310-0063
水戸市五軒町1丁目5番48号
電話029-221-6420(代)
FAX029-221-6474
東京支社 〒104-0061
東京都中央区銀座2-10-8
大日ビル3階
電話03-5565-0530
FAX03-3543-3478

©常陽新聞社 1998

【昭和24年6月17日第三種郵便物認可】

「東洋の知恵の環境学」

風土工学の
竹林征三 所長

求められる哲学的視点

錯そうした環境問題追求

「風土工学」を提唱するなど土木分野に新たな光りを当てている財団法人土木研究センター風土工学研究所(つくば市)の竹林征三所長(工学博士)が『東洋の知恵の環境学―環境と風土を考える新しい視点』を著した。錯そうした環境問題を解くカギを追求する中で仏教の哲学に着目し、日本独自の保全・保護・創生のあり方を説いている。

日本独自の保護・保全・創生へ

竹林さんは京大大学院修士課程を終了後、建設省に入り、琵琶湖、甲府西工事事務所長などを経て、九五

年の第七回世界湖沼会議の際には土木研究所の初代環境部長を務め、分科会の座長などとして活躍した。

そうした中で、直面したのが土木事業に対する風当たりや強さ。いかにマイナスイメージを払しょくする

か、考察を重ねながら「風土工学」という新しい学問分野の構築に力を注いできた。

新著『東洋の知恵の環境学』に盛り込まれた内容も一連の成果の一つで、①自然について②環境問題認識の構造③環境学の体系化④環境十法則⑤環境問題解決へのシステム構築⑥八正道の環境学への知・敬・馴の環

境道⑦まとめ―環境と土木技術の役割、という構成。竹林さんは、近年各大学で行われた土木工学科の改名を例に挙げて、環境建設学科、地球環境システム学科、環境デザイン学科など、まさに百花りょう乱。また、これまでの科学は細分化する縦糸系の追求によって進展してきたが、諸科学の間、自然科学と社会科学の間を連結する横糸系の必要性が叫ばれてきた。しかし、環

境問題は今、科学的な方法論というより、哲学的視点を求めていると指摘。そのうえで、仏教などの経典の中に自然哲学の真理探求の過程が織り込まれている。そこに、現在の錯綜した環境問題を解く鍵があると執筆の動機を語っている。

B6判、二百五十八頁。

ビジネス社刊。本体二千円。



竹林征三
Shigeo Takebayashi

地球にやさしい仏教の哲学
環境と風土を考える新しい視点